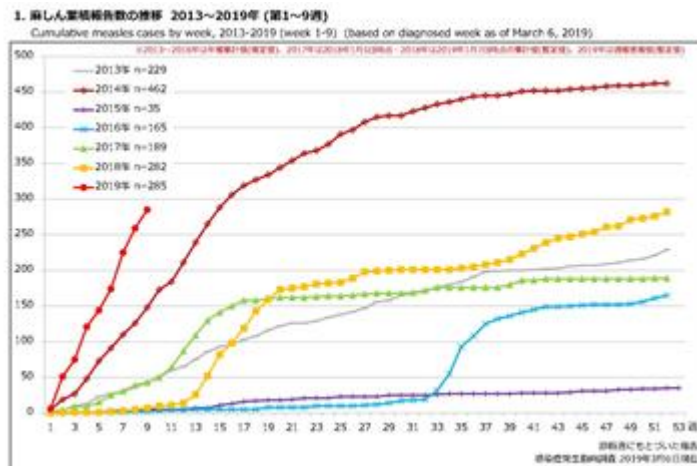




# 麻疹

麻疹（はしか）とは麻疹ウイルスが感染し、起こる感染症です。うつり方は空気感染、飛沫（ひまつ）感染（つばや鼻水が飛ぶこと）です。なので、同じ狭い空間で過ごただけで感染する確率が非常に高いです。肺炎（はいえん）や脳炎（のうえん）を起こすこともあり、死につながる感染症です。日本でも今年は大流行しており、オリンピックを控え、また国際化する社会の中で、日本でも更に増える可能性のある感染症です。



## 症状

潜伏期間は10-12日間くらいです。この間は目立った症状はありません。

潜伏期間を過ぎると高熱が3-4日間続き、止められない咳、あふれ出る鼻水、湧き上がる目やになど、風邪症状の非常に強いものが目立ってきます。その後半日から1日くらい熱が1℃くらい下がり、その後また高熱が出てきます。この頃になると全身に発疹が出てきて、口の中にははしか特有の斑点が出てきます。この発疹と口の中の斑点が出てくると「はしかかな・・・」と予想がつきます。この頃の風邪症状はとてひどく、食べ物が飲み込めないような、夜も眠れないひどい咳が続きます。これはどんなお薬も効き目がありません。ぐったりしてしまい、意識があるのかなのか分からないくらいです。その後も1週間弱高熱が続き、熱が落ち着いてくると皮膚の赤みが浅黒く変化していきます。

合併症としては肺炎と脳炎が有名です。肺炎ははしかの患者さんの30%くらいにみられます。人工呼吸器をつけなければいけない重い肺炎もめずらしくありません。脳炎ははしか患者さんの2000—3000人に1人くらいの割合でおこり、その死亡率は15%、神経の後遺症は20-40%にもなるので、非常に危険な感染症です。

## 治療

はしかの特効薬はありません。症状をやわらげるお薬を症状に合わせて使用します。入院は特殊な病室が必要になるため、どこの病院でも入院できるわけではありません。**唯一の予防はワクチン（予防接種）**です。

## 療養・登園・登校・外出

解熱後3日間は自宅ですごす必要があります。感染力が強いため熱が下がった後3日間たつまでは外出もできません。お風呂は清潔を保つためにも、元気であればシャワーなどをお勧めします。その気力がなさそうなら、ぬれタオルできれいに拭いてあげましょう。ご飯は食べる元気がなくなってきます。食べられている間は欲しがるものを欲しい分だけ、食べられない時には水分と糖分をこまめにあげましょう。何も口にできなくなった時には脱水になってしまうことがあるため、医療機関に相談してください。ただし、空気感染もしますので、他の患者さんたちにうつしてしまうと大変です。「必ず」受診する前に、受診しようと思っている医療機関に電話で相談してください。

## 予防

**予防接種が唯一の手段です。**現在のはしかのワクチン（MR ワクチン）は安全性が高く、規定の接種回数で感染を防ぐ効果が期待できます。しかし、ワクチン接種により得た免疫（めんえき）はしばらくするとなくなっていくます。小学生以上、大人を含めて、流行しているときや流行している国へ旅行や留学をする予定のある人、看護学生、医学部生、保育士、薬剤師、教職員の人は、過去を含め最低 2 回のワクチン接種をお勧めします。以前予防接種のデメリットについて論文やニュースが流れ、予防接種は怖いものという考えが広まりました。後の検証で、これらの論文は検証方法が不適切と判定され、掲載紙より削除されています。反予防接種の思想が強いヨーロッパでは近年はしかの流行が拡大してしまい、フランスでは議会により予防接種が義務化（日本は努力義務）されることになりました。ルーマニア、イタリア、ギリシャ、インド、インドネシア、バングラディシュ、ネパール、ミャンマーなど日本と親交の深い国ではまだ年間何千人の患者さんが発生しています。オリンピックを控え、海外からの旅行者も増えます。大事になる前に、かかっているかどうか心配になる前に、予防接種を受けておいて損はないでしょう。